

青山学院大学 物理・数理学科 コロキウム

2017年度 第7回

下記の通りコロキウムを企画致しました。学生や分野の違う方にもわかるレベルから始めて下さるようお願いしてあります。

是非ともご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

(世話人：鈴木 岳人、連絡先：042-759-6290)

講演者 芹野 素子 氏(青山学院大学 理工学部 物理・数理学科)

日時 11月16日(木) 午後4時45分から

場所 青山学院大学 理工学部 L棟6階 L603室

講演題目 「X線監視装置の時間軸天文学・重力波天文学への貢献」

我々が地上から見上げる夜空と異なり、X線で見える星たちは騒がしい。実に様々なタイムスケールで明るくなったり暗くなったりしている。極端な例では、数秒から数百秒だけ明るく輝き、その後もう二度と観測されないような天体もある。限られた観測の機会を逃さず、あらゆる観測装置でとらえるために、天文学者たちは何十年もかけて速報のネットワークを築いて来た。広い視野で監視することで、いつどこで発生するかわからない突発天体をとらえ、即座にその位置を速報することができるX線監視装置は、限られた観測機会に集中して観測を行う「時間軸天文学」で大きな役割を果たして来た。

更に、X線監視装置の広い視野は、近年話題の「重力波天文学」においても大きな役割を果たすことができる。今年ついに重力波イベント GW170817 に対応する天体が多波長で観測され、「重力波天文学」の可能性は大きく広がった。

講演では、現在国際宇宙ステーションから観測を続ける「全天X線監視装置 MAXI」の成果を中心に、X線監視装置が速報を通して時間軸天文学、そして重力波天文学にどのように貢献してきたかについて紹介する。
